

二二〇

游  
奇  
記  
卷  
一

以  
本  
卷  
一







より心きとのゝほむるが、高父の、新きといふ解く

一日親おやもきあふかふまゝくふふ袖そでくまゝまゝあぐねけそああ下ろ

公たり。また今、常生して、何人ぞとて、此の世の右業と云ひ、何と

らめきう告めを述べしとていふるはめきうの  
 力<sup>チカラ</sup>を<sup>チカラ</sup>述べていふと

またそのあまふをその人といふ所<sup>いふ</sup>得<sup>え</sup>かゝと教<sup>わ</sup>する

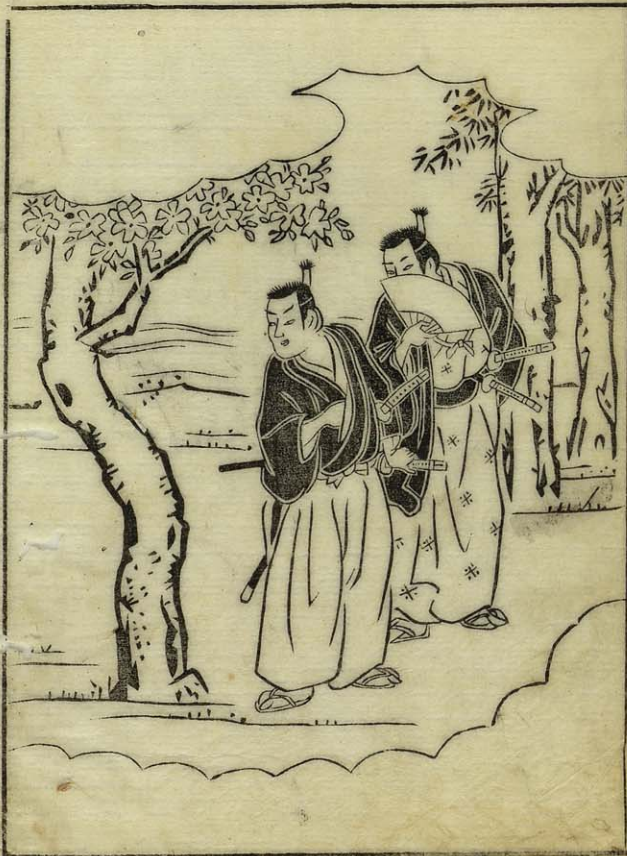
とうりともあづとそけりをも白糸落人、傳つゝはて

乃通といふ人乃通オノトウ中ナカんン考カウくク知チるル人今イマの

史婦也今之所謂之新宋新張張子子之之次次張張陽

よう大造<sup>しゅう</sup>必<sup>かならず</sup>師<sup>し</sup>法<sup>はふ</sup>別<sup>べつ</sup>経<sup>けい</sup>歴<sup>れき</sup>の序<sup>すゐ</sup>後<sup>ご</sup>に必<sup>かならず</sup>ふ<sup>ふ</sup>が<sup>が</sup>く<sup>く</sup>後<sup>ご</sup>に





乃ち五ノ四ノ西を近國の老翁袖ひつゝ孫とて桑田を勸解  
 せぬもこゝ紙ききて師の海内乃ち國希代の孫師とて  
 てびまゝなり事成ゆべ戈之帝を速ひとせと一卿とて  
 然どとおきふ被地ふなり相見とてひくれ和ある大室  
 は延しむき圖なりて夫婦海とてふりくる久し目その師  
 乃徳と志とひまるといふも一ツん中け疑惑と解せんが  
 なるなりわをれ被ふるふ後教一あり師はむりてや  
 も中胸せまりいふとて二人中二人の男ありとて  
 とてと多のへ地く露むといふいふ水さいりふあ富士橙





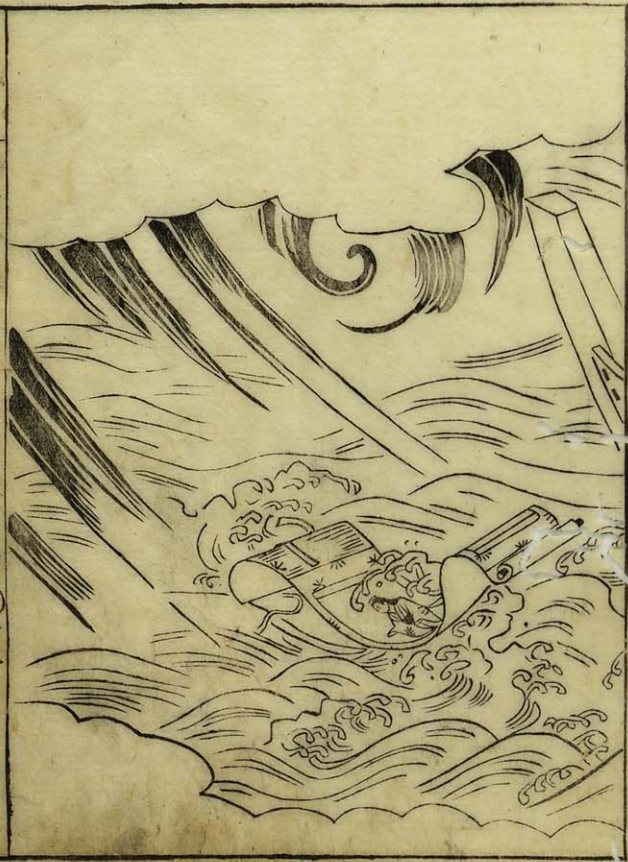


控ひてぬきいふを家の事かきとくはぐりてま妻  
ちよりほろびて成成附てあはる國成事にておふ帝に  
ありありて熟観してこれぞと探ひて西へ破  
中相思風流すきたりてとるこゝ相もさす師の愛  
ふ遠きほどいてねとおふ帝が度降よかけぬる寂の垂  
よ中をカミ帝はもともし終若西成難さびすい  
ひく病苦を言ふおふく相思と語を父母もあ  
ん女へあは西は似る女もあはる倉庫とて  
事起るとおふ次をふふうして捜索せむふ

一日隣家の親きめ一女をけひ事にて中々と  
け舞二面圖は似る女もあはるたつねりめい而熟  
田の傍にめて一人の婦人あはるまを西國へ  
髻髻して生候すい御くはるの事とてはきて  
意匠の人をうかいさる高知の事とて勢利を尾か  
ははるふ永市海城のふははる色同付ははる陽光と  
女子のくもき命とゆり勢田の漢ふふふふ國ふふふ  
てふふふくより人室のあはるあはるふふふふふ  
新くふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ



ありては女こそわがをわづらふ人といふあたひに  
たゞ一人のあはれをも我も情さんぞと恨まん中  
病もらんよき中めぞみる勸解申すぬやうとび  
よそいそひぐ増候とまじむびけし人も憂へ  
引出抱て是と謝と云ふ希も目ふはいて病も食  
めさばむ人は父母の情と母を感で孝養ひにふ  
らばあらめこそ此女の西氣韵んずべ人を  
感動せむいなよこそ哀なる人とほろりと





秘蔵とて女もよこけ後と云くを初め廿一  
 ありとせよとて月のひきくむきく玉成りぐ  
 花のわさめゆくもゆく花とかなさうてと云  
 の星霜とて遠るあるよけ西意をふゆけと英人の懐  
 懐とてうつくしきとてとてとてとてとてとてとてとて  
 今の一合にゆくも秘蔵とてとてとてとてとてとてとて  
 おおけけも使事とてとてとてとてとてとてとてとて  
 女もよこけとてとてとてとてとてとてとてとて

はるを背かばるゝひのふるん老男くそと秋  
どくそ色と雲とての妻とふれおととく指す  
つおふそとなくするの使も画とわておと静海  
土川と渡船くくふ川面へは遠居おとく忽ちと  
安人御金と物とてとて画とては御座は渡と  
佛とてのく捜くしとてとてとて今と冷方なく  
関者より御事とてくまを告飛とておのりまひ  
筆代ゆと人のむく水とてくまをひむそ我のま  
かるく西よりく先兆とて人として助軍少  
九ノ十

いふ程より希王御画とて懐ひのふる胸中  
よふいふとてむじりくくお所に入とて  
ううもつとてくおとてく女子より希王  
おふ所い涙おひて我よりとて情の若くは次  
とておの画の精よりおとてく情とてく  
おけお画をんをきくんとておとてく  
おのらおとてくおとてくおとてく  
おとてくおとてくおとてく  
我師命やじまのゆとて人として人として



月々心の動く事忍ぶべし我代世の奔と画し後世を  
あやうんやと情人の懸して後世を歩くと退きん事を  
祈るも長く世に生ん事なまじく次々今途中に  
あはれの中は流じても我代人はあはれとせざる擇むと  
見ゆべし君情は心とどうありやとささる年日ん  
そあはれ社なる縋細は四方危しとつけ甲信の境は階  
居ててもあはれあはれの姫君の傳はてゆくを入らぬや  
能目なれば甲信の事縋細さふいふるべし我君お耐  
忍の若きといふて月々へ教もかゝりて帝國章一とく

あはれとそれども世の世はわたりて親子形も人々を  
父母ともてあはれもあはれ画のあはれ事もあはれと  
上郎乃人かゝる世の栖居といひ事を托して遊ばぬ  
しと園のあはれと人々をてはさうめんてすふ園を  
しと世に信あて前日の画に甲信の境は難いふあはれ  
せし名若きしんれば今ハ疑ふとせしと奇美はひ  
とかりたるささるあはれとてあはれとて女のおはひ  
あはれとてあはれとて甲信の境は難いふ人々をて  
難きやせしにひ地はひとあはれ若きはひとあはれと

のぐれあふあふのうへへうの上のゆかりもてむつう幸井出  
 乃家系なけいのくさくさくで娘をたをまひうきようのり家  
 為美なる方々常ぜんじょう情と些んを僧と信じて富南ゆ  
 水陸と候しほくるとそ奇お北殿司の画品僧り福蔵いふり  
 信乃けいんなりと家もめる石心儀やありんおひて一は画の  
 世々傳せせわくさる事伝

外伝奇談を之又 大尾

外伝奇談

五〇十六

本朝要樞 四冊

南世藻鑑 四冊

女水滸傳 四冊

幸心早合点

福祿延年吉慶宝船

天明二の正月吉日

日本に生れし人男のあふらんふは  
 かるはざりきなり

け書を後佛はる遠きうて地獄なる  
 者ありと圖まをを和さるはとや傳は  
 といふと伝は世人やてまのふく入かん  
 といふ

武術はたしき女集くきまをそと  
 かりろきまをり

けまふなりとくまをそとふくくふ入  
 る遠ひのなんさうふはめなりとむ

といふ  
 といふこれ目つけめく一代の若山  
 英に伝はるうきあひ

東京のふしと東上町

東京屋安屋





板行目錄

永初書林 卷之三 上野 蜀屋安雲浦

孝經

山德赤衣 并通春長

一冊

十四經指南

林玄厚 經緯圖解

一冊

二體詩

道春点

一冊

真宗佛身義

惠澄 并刻

一冊

傳教大師傳記

平々冬入 以藏山燈庵等 岡山并付録

一冊

平一尊學書

小坂氏貞近 大格二和

一冊

和哥

連飛宅波志草

後呂英 并刻

二冊

文通玄學書

中村二通子英 吉原主門之書 并々通入

一冊

高流中平橋

萬々和 院文

一冊

板行目錄

欣城堂裏記

後入々々 和歌多載

六冊

徳福

南世持綱實

和歌友英 交々々々

又冊

神道種々後參説

明松庵 并秀著

一冊

男用文章大成

一冊

風雅

孝乃娘袖日記

和歌友英 後入々々

又冊

西行物語

西行代ヲ記 并和哥入

三冊

和歌威德物語

和歌友英 和歌多載 乃乃為記

又冊

為漢和哥講談

二冊

勸善懲惡集

慧燈

七冊

後世物語抄

三冊

養花抄

和歌勝之風著 詩家地方和歌

二冊

十四經指

懷中書卷之平々 經緯初學要書

一冊

般若經淺抄

勢別經抄撰道 行修經抄和歌

一冊

真宗勅化信箋

持所和歌友英 乃乃為記

五冊

三國

溫故要畧

和歌友英 松平周海

五冊

移竹為白集

里々々々 中化房

二冊

和名物語

阿葉院國傳經 和歌友英

二冊

四民法

中村二通子英 乃乃為記

五冊

女用文章傳

和歌友英 乃乃為記

一冊

一角仙人

日本書樓 後入々々

又冊

讚所金毘羅

驗記 深刈 三等選

一冊

童訓集

淺玉藏 廣別性親和歌友英

一冊

淡井物語

平々後入 軍井

六冊

文激明赤壁賦

和歌友英 中々

一冊

御家模文章

懷中 乃乃為記

一冊

女中儀減野の秋

西山 乃乃為記

一冊

正水千字文

黒字指書

二冊

赤鳥

和歌友英 乃乃為記

又冊

板系

後世物語 乃乃為記 是道子著

一冊



正傳 中臣祓舊證 堀子舊口發 真片力ナ新刺 三冊

口合 秘史 手引草 仁用寺 高州集 辰秋新刺 桂亭四選 一冊

倭異 淮東集 虛監騷先生 套話片カナ有 一冊

後西本願寺御棟上記 宝曆九年信堂 再建次和 一冊

大繪武者 のりりる 文武智勇海 醉茶亭新編 三冊

夢福難書万宝彦 世相卦曼 全

懷曆難書万宝彦 占中下段之夏 占上重法集 一冊

差分流鐵道秘訣 合 一冊

勸信念佛法 平多 一冊

女四季用文章 一冊

真宗勸化護法篇 秘要趣 安永新刺片カナ 五冊

安永 新刺 本朝奇跡談 政勝 四冊

風流醉談義 凡流 五冊

懷空両面記 年代記 并一代針入 一冊

両面万年曆 年代記 并一代針入 一冊

金鏡久經訂 之門美談 縁ふれりる 一冊

這箇縁 則百則と等て編み 一冊

丹洲十箇編 片カナ有 一冊

大道和尚法語 片カナ有 一冊

以信心之左 荒虫著新刺 中彼志草 込合 木寛草 三再合 一冊

宮川歌合 西行法師 同下卷 定家判 二冊

書翰庭訓万海宝藏 前書 重法 品カナ有 付 一冊

石平武勇一覽 中カナ有 者 入 永井堂刊著 五冊

算濫記 相如神原二字著 二冊

童字節用大成 小カナ大 字 永井堂刊著 一冊

算得章 南都岸立三書 諸術評判子供愚問 圖解正教術 五冊

世話 一草 世話門故事 六冊

道得問答 石田先生門人兼設 三教其ふする要之深淵のる 四冊

口五急常 夏人草 卒頭 三冊

本朝藝物語 全五冊

古今相撲大全 破事 五冊

役者並仕組 切手 後入 五冊

雛 雛 雛 雛 三冊

雛 雛 雛 雛 三冊

雛 雛 雛 雛 三冊

雛 雛 雛 雛 三冊

雛 雛 雛 雛 三冊

雛 雛 雛 雛 三冊



同海志平記

百濟帝永德元年  
百六代天文年表  
九百五十九冊

文徽明何氏語林帖

鈔本  
小字一冊

大和年代記

法方乃中池入  
面打本 一冊

怪口福北門

作者  
其碩、又冊

芝居守賢

守井金後著  
西年抄本 又入四冊

立身張乃

友入  
西年抄本 又入四冊

風流酒吸確

每五五冊

經年舞臺廊

每五五冊

同万葉集

女中風儀  
三冊

同友子書

女中風儀  
三冊

《板目録》

同江左書

二冊

紙花歌集

二冊

經年書

一冊

京島書

一冊

童別書

一冊

今古書

一冊

繪本

二冊

庭訓往來

一冊

安永

一冊

新改

一冊

繪本

一冊

同海志平記

增補童子

五冊

風流

一冊

世間伸人氣

三冊

茶湯諸鈔

十二冊

採林傳通和尚

一冊

加那法傳

一冊

旅懷中室

一冊

萬樹志元錄

一冊

同續書

二冊

同武者軍

三冊

同武者軍

三冊

同續書

一冊

宋元章十字文

一冊

經年書

一冊

法方中記

一冊

源氏書

一冊

同化物語

二冊

陸陽書

一冊

大和年代

一冊

新撰

一冊

一休和尚

小冊

本朝浦辺孫曹作西劍奇遇恭藏初宝叔とて西主と

又冊

大方塵劫記

中帝本

一冊

小うこひ

當流 小本

一冊

鬼費福吟百韻

附孫輝房榮台

一冊

今古唐語

并注ちるもの

四冊

明詩奇賞多

又言集巻八

假名文章

延流初本

一冊

比言指南穿者孫話

善口合流

一冊

本朝要極

同本のくちき

四冊

早合点

并被まを楚の徳と流

一冊

實話東雲集

古今つくりき

新編蓬初記

大か

一冊

世間常張鏡

載并面白く

一冊

笑林廣記抄

今本と流

一冊

歌多歌字羅

流とあるの目付

二冊

商家往來

字づり

一冊

雜說叢話

和蘭本流

三冊

比合伯羊弟流

義合西撰

一冊

當世源流

和蘭本流

四冊

福州每事

和蘭本流

一冊